

廃炉・汚染水対策チーム会合 第70回事務局会議 議事概要(案)

日時: 2019年9月26日(木) 10:00~12:10

場所: 東京電力HD 本社 本館5階503A・B会議室／福島第一新事務本館2階会議室
／福島復興本社(復興推進室)

出席者:

岡本教授(東大)、小山首席研究員(電中研)、
光成審議官、新川審議官、土屋室長、奥田対策監、木野参事官(資工庁)、
竹内室長(規制庁)、文科省、厚労省、農水省、山名理事長(NDF)、野田理事(JAEA)、
東芝、日立、三菱重工、電中研、IRID、産総研、東電 他

議事:

1. プラントの状況について

- ・ 東京電力より、プラント関連パラメータ、滞留水の貯蔵状況について説明があり、現状について関係者で情報を共有した。
- C. 給水温度の過渡的な変化に伴う各号機の温度計の応答が異なる。これは各号機の熱容量の違いが現れたと考えられるため、この事象を基に分析を進めて頂きたい。(岡本教授)
- Q. 増設多核種除去設備における新規吸着材の実機性能試験において、発泡が確認されたとのことだが、これは化学反応によるものか。(小山首席)
- A. 吸着材中のメチルセルロースが溶け出して発泡したものであり、化学反応によるものではない。(東電)

2. 個別の計画毎の検討・実施状況

- ・ 東京電力より、これまでの一ヶ月の動きと今後一ヶ月の予定について、「中長期ロードマップ進捗状況(概要版)」並びに以下の資料に基づき説明があった。
 - ① サイトバンカ建屋 地下水流入対策
 - ② プロセス主建屋の地下階調査結果について
 - ③ 1号機原子炉建屋ガレキ撤去関連調査結果及び北側屋根鉄骨の切断開始について
 - ④ 3号機燃料取扱設備の状況について
 - ⑤ 福島第一原子力発電所 1/2号機排気筒解体工事の進捗について
 - ⑥ 1号機PCV内部調査に係るアクセスルート構築作業について
 - ⑦ 福島第一原子力発電所 1号機燃料デブリ冷却状況の確認試験の実施について
 - ⑧ 福島第一原子力発電所 5・6号機の現状について(5・6号機低レベル滞留水量の状況)
 - ⑨ 影響、頻度を用いた津波対策の整理
 - ⑩ 千島海溝津波に対する防潮堤設置工事の状況について
 - ⑪ 構内設備等の長期保守管理計画の策定に向けた検討状況について
 - ⑫ 東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所の廃炉のための技術戦略プラン 2019について
 - ⑬ 東京電力福島第一原子力発電所事故に係る継続的な調査・分析の進め方について

- ・ 質疑応答における主なやりとりは以下の通り。

<サイトバンカ建屋 地下水流入対策>

- Q. サイトバンカ建屋の止水実施による、今後の汚染水発生量の低減見込みはどうか。(山名理事長)
- A. 引き続き、データを蓄積して、効果を確認していきたい。(東電)

<プロセス主建屋の地下階調査結果について>

- C. 今後、ゼオライト土嚢からのセシウム再溶出の懸念があるため、総合的な調査を行い、対策を検討して頂きたい。(小山首席)
- C. ゼオライト土嚢に吸着された分のインベントリを推定することが重要と考える。部分サンプリングによる調査を検討するなど、しっかり作戦を立てて進めて頂きたい。(山名理事長)

<タンク建設進捗状況>

- C. 2020 年にはストロンチウム処理水が無くなる計画となっていることから、それを踏まえて今後の水バランスシミュレーションの見直しの考え方について共有して頂きたい。(岡本教授)

<1号機原子炉建屋ガレキ撤去関連調査結果及び北側屋根鉄骨の切断開始について>

- C. フォレンジックな事故調査を進める上で、ウェルプラグの調査結果は重要であり、貴重なデータである。スミア採取は遠隔で実施しており、どれだけの量を吸着できるか、面積や圧力で変わってくる。難しい面もあると思うが、データの分析・解釈をしっかりと実施して頂きたい。(山名理事長)
- C. 今回のように原子炉格納容器の上部にオペフロからアクセス可能ということがわかったので、今後、アクセスした際には温度計を設置する等して、トランジェントなデータを採取できるよう努めて頂きたい。(岡本教授)
- C. 9/27 に再度、使用済燃料プール内の調査を実施予定とのことだが、今後、使用済燃料プール上に養生を設置すると、暫くの間プールの中を見る事が出来なくなる。カメラをもつと下におろしてガレキの状況を調査する等、現時点で可能な範囲で、燃料取り出しに必要な情報を収集して頂きたい。(新川審議官)

<3号機燃料取扱設備の状況について>

- Q. マストの水圧モータの納入時期は決まっているのか。(木野参事官)
- A. 10月上旬に入る見込みで進めているが、まだ確定ではない。(東電)
- Q. 水圧モータのような箇所が他にもあるのではないかと。予備品準備の状況を含めた対策の実施の状況はどうか。(岡本教授)

- A. 1 回目のリスクアセスメントでは、予備品不要と評価していたが、追加のリスクアセスメントで予備品として必要と判断したもの。追加発注しようとしていたが、メーカーとの契約に時間を要していた。(東電)
- C. マストの水圧モータの予備品手配が進んでいないのは、極めて遺憾であり、東京電力の責任と考えている。他の予備品も含めて早急に調達を進めて頂きたい。(新川審議官)
- A. 予備品調達の件は当社としても、後手に回っているところがある。調達対象の予備品 1 品毎の在庫状況に関してどこにあるのかデータベースを作成している。少し時間がかかるかもしれないが、在庫が分かれば、発注は不要と判断し、本当に必要な予備品の調達に注力することも可能だと考えている。(東電)

<福島第一原子力発電所 1/2 号機排気筒解体工事の進捗について>

- C. クレーンで装置を吊り上げた際にダストモニタ指示値が上昇しているようだが、今後はその影響を考慮した上で、異常を見逃さないように注意して頂きたい。(岡本教授)
- C. これまでのトラブルは、初期故障のようなものが見えてきているということだと思うので、時間がかかっているものの、価値はあると考えている。今後予想していないようなことが起きる可能性もあるので、急がず慎重に確実に進めて頂きたい。(山名理事長)

<1 号機 PCV 内部調査に係るアクセスルート構築作業について>

- Q. アクセスルート構築作業と燃料デブリ冷却状況の確認試験が同時期に予定されているが、並行で実施することの評価は実施しているのか。(岡本教授)
- A. 細かい作業日程については、お互いに調整し、相互に悪影響のないよう注意しながら作業を進めていく。(東電)
- C. 冷却状況の確認試験中、ダストモニタ設置に向けた調査で原子炉格納容器近傍にアクセスする可能性があるということなので、可能な限り情報を取得することも検討して頂きたい。(岡本教授)
- Q. ダストの測定箇所を追加し、データを取った上でダスト飛散低減を考えるということだが、当然、切削を行うことでダストが舞う作業となる。環境への影響を減らすという考え方はわかるが、ダストが舞うからやめるとするのはおかしいのではないか。(小山首席)
- A. 作業管理値に達しないと想定していたにも関わらず、それを超えてしまったということが問題と考えている。そのため、慎重に作業を進めていきたいということ。(東電)
- C. 基準を決めてしまうと、今後、基準に縛られて進まなくなるという懸念もあるので、よく考えて対応頂きたい。(小山首席)

<福島第一原子力発電所 1 号機燃料デブリ冷却状況の確認試験の実施について>

- C. 今回の試験では、極めて重要な情報が得られると考える。安全に十分留意して進めて頂きたい。熱バランスの計算結果によると、1ヶ月単位での大きな時間遅れがあるようだが、それも踏まえて将来を見据えた検討をお願いしたい。(岡本教授)

<構内設備等の長期保守管理計画の策定に向けた検討状況について>

- C. 長期保守管理計画の策定は、放射線を含む人身・設備安全を見ていく上で、良い取り組みだと思う。人身災害防止の観点からは、化学プラントやコンビナート等の原子力以外の産業での管理状況も参考にして進めて頂きたい。(岡本教授)
- Q. 監視機能のうち、原子炉周りの温度計等、劣化の修復が出来ないものに対する処置はどう考えているのか。(山名理事長)
- A. 温度計の追設等が考えられるが、実現性を踏まえ代替監視も含めて検討していく。(東電)

<東京電力福島第一原子力発電所事故に係る継続的な調査・分析の進め方について>

- Q. 連絡・調整会議の体制の中に、内閣府にある原子力防災が入っていないが、その情報の情報共有はどう考えているのか。(光成審議官)
- A. この会議は廃炉作業を進める中での事故分析調査が干渉しないことを確認するものであり、あまり関係しないと考えている。また、この会議は公開であり、情報については誰でもアクセス可能となる。(竹内室長)
- C. 原子力防災を進める上でも有益かと思うので、オブザーバーに入れて頂く等、検討をお願いします。(光成審議官)

- Q. 連絡・調整会議と事故分析に係る検討会の関係性はどうなっているのか。(木野参事官)
- A. 連絡・調整会議は、廃炉と事故分析の双方が円滑に進むように調整する場。事故分析に係る検討会は、事故の調査を専門に扱う場で、もともと規制委員会に設置されていたものという整理。(竹内室長)

- C. 第 67 回廃炉・汚染水対策チーム会合事務局会議でも、事故分析の基本的考え方について提示されているので、この内容をメンバーの方に共有して進めて頂きたい。(岡本教授)

次回の廃炉・汚染水チーム会合事務局会議は 10 月 31 日に実施予定。(土屋室長)

以 上